

## 教育・臨床心理専攻

### 人材養成および教育研究上の目的

---

教育・臨床心理専攻においては、教育と臨床心理の二分野における高度な専門職業人の養成を主たる目的とした夜間大学院として、カリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期の教育分野では、専門的理論と実践的な活動との結合を図ることによって地域社会の求める専門的かつ実践的な指導者を育成することを目的とする。臨床心理分野では、公認心理師及び臨床心理士の資格取得を目指し、広く社会の要請に応えることのできる専門的人材を養成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程よりさらに高度な専門知識と実践能力を練磨し、関連分野の開発研究や実践を担う高度な専門職業人や研究者を養成することを目的とする。

### 三つのポリシー

---

#### ❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

教育・臨床心理専攻は、「教育」と「臨床心理」の2分野における高度専門職業人を養成すべく、教育分野博士課程前期では地域社会において教育の実践的能力を有し、教員としての資質をさらに高めたい人材を受け入れ、同分野博士課程後期では、教育についての専門的な高度な知識、多面的、総合的な思考力と批判力、判断力を有し、地域・社会に貢献できる人材を受け入れる。また、臨床心理分野博士課程前期では、人への関心と人権を尊重する倫理観をもち、共感的なかかわりを重視する人材、さらに専門的知識に裏打ちされた援助技法を身につけ、悩める人を援助する職業に就きたいと希望する人材を受け入れる。同分野博士課程後期では、すでに学校、医療、福祉等の領域で臨床活動に従事していて、心理的問題をかかえる人の社会生活の質の改善に関心をもち、さらに効果的な援助技法の開発に意欲的な人材を受け入れる。

#### ❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育・臨床心理専攻の教育分野博士課程前期では、教育人間学的側面と教育システム論的側面から20の特講、演習の選択必修科目と24の選択科目を設け、専門的理論と実践的活動との有機的な結合をめざし、同分野博士課程後期では、専修科目の教育実践学としての特別研究および特講を通して、学校教育論に主体をおきながら家庭教育論、地域教育論との連携・関連を重視するカリキュラムを組む。また、臨床心理分野博士課程前期では、公認心理師及び臨床心理士の資格取得に必要な科目を網羅し、実習科目を体系的に展開しながら、理論的裏付けをもった実践力を身につけられるカリキュラムを編





成する。研究成果は修士論文に結実することとする。同分野博士課程後期では、臨床心理学特別研究を必修とし、学生の研究テーマにそって指導教員が学位論文作成の個別指導を行う。

また、両分野とも必要に応じて、外部から招聘する非常勤講師の講義も用意する。

#### ❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

教育・臨床心理専攻の博士課程前期では、学生各々が所定の課程を経て自らの研究課題を発見し、その問題の解決のための方法とそれを論文の形式で表現する方法とを身につけ、解決に至った道筋を修士論文に仕上げたのち、厳格な審査によって同論文が合格と判定された場合に課程修了とし、修士号が授与される。

博士課程後期では、博士課程前期より更に高度な専門知識や実践能力を高めながら研究が展開される。研究者各々が研究課題を設定し、構想を練り上げ、科学性および倫理性が担保された研究方法により研究を遂行し、博士論文作成につながるような研究成果を対外的に公表することで研究水準を高め、学問的な体系性および発展性における学術上の意義を意識しながら、自立した研究活動を展開する。そして、研究活動の総決算ともいえる博士学位論文を提出したのち、厳格な審査によって同論文が合格と判定された場合に博士号を授与される。

- ・ 専門領域において、既存の研究水準を超える学問的な体系に寄与していること
- ・ 研究課題について、学会発表や論文投稿を重ね、一定基準以上の研究成果があること
- ・ 高度な専門知識・実践能力を兼ね備え、研究者として自立した活動ができること

